

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 18日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|--|
| 事業所番号 | 2274201769 |
| 法人名 | 株式会社 富士見プロジェクト |
| 事業所名 | グループホーム さくら |
| 所在地 (電話番号) | 〒424-0001 静岡市清水区梅ヶ谷645-13 Tel 054-344-2230 FAX 054-344-2229 |
| 評価機関名 | セリオコーポレーション株式会社 |
| 所在地 | 静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号 |
| 訪問調査日 | 平成19年10月29日 |

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 7 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 | 9.18 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|-----------|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 木造 | 造り |
| | 2階建ての | 1階 ~ 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--------------|----------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 57,000 円 | その他の経費(月額) | 9,000 円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(90,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,400 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成20年1月31日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 13 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 9 名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 82.8 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------|
| 協力医療機関名 | 山の上病院、小高整形外科、小高歯科医院 |
|---------|---------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、静岡市清水区の山あいの郊外にあり、静かな自然環境に恵まれた場所にある。玄関は扉が開放され出入りが自由からくる開放感があり、ホーム内に歩を進めると利用者、職員の明るさと家庭的な雰囲気の漂いが感じられた。職員の中に看護師が在籍しており、グループ内の管理栄養士やオーナーが医療関係者でもあることから、日々のケアサービスや医療支援の面において充実したものがある。ホーム長は昨年4月に就任し、利用者の人格の尊重、生きがい等に心を配り、金銭感覚への支援、安全な計画のもとに実施する外出、夕食等、その人その人が楽しめる施策を実行に移している。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-----------|--|
| 重点項目 ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 現在取り組み中の、運営理念、家族への情報提供、ホーム機能地域還元を除き、改善がされている。 |
| 重点項目 ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者が職員ヒアリングを通して全体をまとめているが、全職員参加での取組みとなっていない。 |
| 重点項目 ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 3ヶ月に1回実施し、ホーム状況報告・行事予定等を議題にしている。メンバーは、自治会長、民生委員、家族、職員等で構成されている。 |
| 重点項目 ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族には手紙や訪問時等で常に問いかけ、意見をもらえる雰囲気づくりに留意している。また、出された意見・要望等があった場合はミーティング等の場において検討、反映するようにしている。 |
| 重点項目 ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域の住民として自治会に加入し、地域行事には出来る限りの参加をしている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者個人の尊厳と個性を大切にし、家庭的な雰囲気の中で地域と共に暮らすことを理念としている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎月のスタッフ会議等で日々のケアについての話し合いは行われているが、理念について、職員間での話し合いや意識付けなどは十分行われていない。 | ○ | ミーティング等において、理念を深く掘り下げて職員間で話し合い、具体的なケアについて意見を統一し共有化を図られることが望まれる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の住民として自治会に加入し、地域行事には出来る限りの参加をしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の外部評価における要改善項目は一部を除き改善されている。自己評価に当たって管理者が職員とのヒヤリングを通して全体を取りまとめているが、職員全体での話し合いが行われておらず、評価の意義と理解が十分浸透していない状況が見受けられる。 | ○ | ミーティング等の場において、外部評価の結果や自己評価については全職員がその課題の認識を持ち、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための取組みが望まれる。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 3ヶ月に1回実施し、ホーム状況報告・行事予定等を議題にしている。メンバーは、自治会長、民生委員、家族、職員等で構成されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|------|--|
| 6 | 9 | <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | 市町村との連携は十分とは言えない。 | ○ | 市町村は介護保険の保険者として、また、市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として、事業の推進において大変重要な存在であることから、運営推進会議をはじめホーム運営上の課題等の協力関係を築く取組みが望まれる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> | 毎月の利用料の請求時に、ホームでの暮らしぶり、金銭管理等について報告しているほか、健康状態は緊急時にはすぐに連絡をとるなどの措置をしている。 | ○ | 家族等の訪問回数が月2～3回程度から年数回程度までと、家族の訪問頻度が少ないことから、更に様々な機会を通して家族との関係は密にされることが望まれる。 |
| 8 | 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 家族には手紙や訪問時等で常に問いかけ、意見をもらえる雰囲気づくりに留意している。また、出された意見・要望等があった場合はミーティング等の場において検討、反映するようにしている。 | | |
| 9 | 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 利用者への影響を少なくするため、周囲の職員がフォローする体制を敷いている。また、よい意味での職員と利用者との関係において特別な人間関係にならないように配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | 法人内外の研修を受ける機会を確保し実行されており、研修内容も共有化が図られている。 | | |
| 11 | 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | 系列の同業種との交流は行われているが、その他の同業者とは、地域の季節行事の際に言葉を交わす程度となっている。 | ○ | 同業者との交流ができることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | サービス利用開始前に本人及び家族にホームの見学を呼びかけ、本人が職員や他の利用者の輪の中に入って、その場の雰囲気やサービスに徐々に馴染まれるよう家族等と相談しながら働いている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者は人生の先輩であるからという考えを職員が共有しており、支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや声かけがされている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、長時間職員と接する機会を作り、外出時や入浴時など利用者と1対1の関係を作りながら本人の意向や思いの把握に努めている。 | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族からの要望を基に、各利用者担当の職員を中心にセンター方式を活用して毎月の介護経過や課題をあげ介護計画を作成している。家族にも介護計画の説明と同意を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 各利用者担当職員が中心になり、3ヶ月に1度の介護計画の見直しを基本に、毎月のスタッフ会議や随時のカンファレンスにて状況変化を確認し、変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援を行っているが、ホームの持つ独自の機能を、十分に生かしているとはいえない。 | ○ | ホームの持っている認知症対応の様々な機能を、利用者やその家族、地域の住民などへ提供できるホーム独自のサービス確立への取組が望まれる。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | グループ関連法人「山の上病院」の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、職員による通院介助を行ったりして、複数の医療機関と関係を密接に結んでいる。また、職員の看護師や週1回の訪問看護師による健康管理や月1回の定期健診受信など、医療介護の充実が図られている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合の指針を設け、入居時に家族や利用者にホームでの医療サービスの提供内容について説明し、同意書ももらっている。 | ○ | グループ内の医療機関との連携は出来ているので、重度化した場合や終末期のあり方について、全職員で終末期対応を共有する仕組みづくりが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者への声かけや対応は、個々の尊厳を大事にして入浴時やトイレ誘導などの配慮を行っている。介護経過記録などは利用者の目につかない所で行ない、個人情報のファイルなどは事務所に保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れは持っているが、安全面上無理がない限り、一人ひとりのリズムを大事にして個別に柔軟に対応している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その日のメニューは管理栄養士が作成しているが、利用者の希望も取り入れて作っている。また、調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は2日に1度を基本に利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 家事全般の仕事や洗濯物たたみ・食事の準備・盛り付け・後片付けなど、自分の役割としてやっている利用者もいる。季節に応じ畑やプランター作りをしたり桜の入植をしてお花見を楽しみにしている利用者など思い思いに楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 屋内にこもらないようホーム周辺の散歩の他、季節の花見や七夕祭り・ピクニック・ドライブ・外食など、利用者の希望や安全面、天候に配慮しながら、様々な工夫を凝らして外出機会を創り出している。また、その機会を活用して利用者の思いの把握や関係作りに役立っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 開所以来、鍵をかけないケアを当然のこととし、職員の見守りを徹底し、日中は玄関を開放し自由に開放的な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 地域防災訓練の参加や、定期的な避難訓練なども行われているが、地域との協力関係を築くまでには至っていない。 | ○ | 運営推進会議を通じて、ホームの非難訓練に近隣住民の参加や災害時の夜間協力依頼を行うなど、地域の人達との輪をより大きくする活動に取り組みが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人内の管理栄養士による献立作りで、栄養バランス・カロリー計算が図られ、毎食の摂取量や一日を通しての水分摂取量をバイタル表に記録し、日々の栄養管理支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関周りにはプランターや日光浴が出来るベンチが置かれ、共用空間は広々としており、居室や廊下・居間への段差も無く、要所への手すり取り付けなど安全面の配慮がなされている。また、畳敷きのフロアも有り、オープンキッチンからの調理の匂いがするなど、家庭的な雰囲気が感じられた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には家族の協力の元、愛用の筆筒・家具やご主人の遺影など本人のなじみの物が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせる環境への工夫がなされている。 | | |